

◎法王エルサレム訪問：ユダヤとカトリック両教徒の関係強化

【毎日新聞、2014年5月12日】

<http://mainichi.jp/select/news/20140512k0000e030176000c.html>

世界約12億人のキリスト教カトリック信徒の頂点に立つフランシスコ・ローマ法王のエルサレム訪問（25～26日）を前に、イスラエルのツイオン・エブロニー駐バチカン大使が毎日新聞の書面インタビューに応じた。大使は訪問が「イスラエルとバチカン、ユダヤ教徒とカトリック教徒の関係強化につながる」と指摘、中東に暮らすキリスト教徒の安全などについてバチカンと政治・戦略対話を開始したいとの考えを示した。

フランシスコ法王は昨年7月、イタリアを除く就任後初の海外訪問先としてブラジルを訪れたが、訪問予定は前任のベネディクト16世時代に決まっていた。それだけに、大使は法王自らが決定したイスラエル訪問について「歴史的な重要性を持つ」と位置づけた。

ユダヤ教とキリスト教の間にはイエスの処刑を巡る長年の確執があったが、イスラエルとバチカンは1993年に外交関係を樹立。だが、ベネディクト16世は2009年、ホロコースト（ナチス・ドイツのユダヤ人大虐殺）を否定した司教の破門を撤回し、イスラエルの反発を招いた。

大使は「フランシスコ法王の在位中に両国関係が（相互）理解と対話の新しい段階に入るよう期待している」と述べ、（1）イスラム教徒が多数派を占める中東の少数派キリスト教徒の状況（2）イスラム過激派の台頭（3）内戦が続くシリア問題—などについて「広範かつ本格的な政治・戦略対話を開始したい」と表明。バチカンとの間で、経済・金融分野で協力を進める協定に署名したいとの考えを示した。

一方、中断しているパレスチナ自治政府との和平交渉について、大使は「世界的な地位と影響力を持つ法王が平和について語れば、前向きな効果を及ぼし得る。宗教指導者は時に紛争当事者間の信頼を高め、敵対を鎮めることができる」と述べ、法王訪問が中東和平機運に与える波及効果にも期待を寄せた。

法王は就任前のアルゼンチン・ブエノスアイレス大司教時代からユダヤ教徒、イスラム教徒などとの交流、対話に取り組んできた。エルサレム訪問には旧知のユダヤ教とイスラム教の指導者が同行する。

☆関連するキーワード：中東のキリスト教徒、一神教間の対話、中東和平

イスラームの誕生と発展



Overview

- 現代世界のイスラーム
- イスラーム以前・イスラーム以降
- 啓典の民
- ジハード
- ムスリムとは
- イスラーム主義

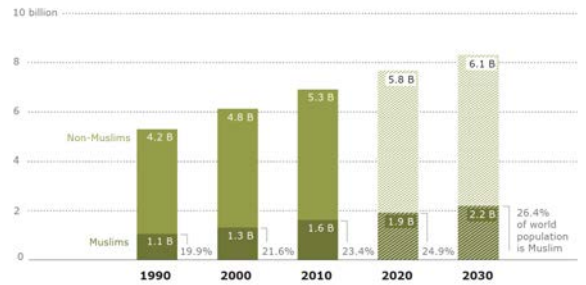
現代世界のイスラーム

- 13-15億人
- 85パーセントがスンナ派、15パーセントがシーア派



エマーム・ホメイニー霊廟 (イラン)

Muslims as a Share of World Population, 1990-2030



Percentages are calculated from unrounded numbers. Cross hatching denotes projected figures.
Pew Research Center's Forum on Religion & Public Life • The Future of the Global Muslim Population, January 2011



イスラーム以前

- ジャーヒリヤ（無知の時代）と呼ばれる。
- サイド・クトゥブ（1906-66）は「ジャーヒリヤ」を現代社会にも適応した。
- アニミズム信仰、多神教が主流（ユダヤ教徒、キリスト教徒も住んでいた）。
- カーバ神殿（マッカ）はすでに聖地巡礼の中心地であった。

預言者ムハンマド（570頃～632）

- 40歳の頃（610年）、啓示を受ける。
- 622年、マッカからマディーナに移住（ヒジュラ）。
- ヒジュラ歴（イスラーム暦）の始まり。太陰暦、一年は約354日。
- 2014年はヒジュラ歴1435-36年。
- 630年、マッカ征服



エディンバラ大学所蔵「預言者ムハンマド伝」

イスラーム以降

- 女神崇拝（多神教）の否定
- 偶像崇拝の禁止
- 血縁関係を越えたウンマ（共同体）の形成
 - 「血の復讐」の否定
- イエス（アラビア語では「イーサー」）に対する理解
 - 「神の子」ではなく神の使者としての「メシア」。三位一体論の否定。
 - 十字架上で死んでいない。普通に死んで昇天し、世の終わりに再臨。

啓典の民

- ユダヤ教徒とキリスト教徒は、クルアーン（コーラン）に先行する啓典（律法と福音書）を持つことから「啓典の民」と呼ばれる。
- 人頭税（ジズヤ）の支払いと引き換えに、信仰の自由を認められた。
- ウンマによって信仰と財産を保証された經典の民を「ジンミー」と呼ぶ（→ 一神教の共存）。

ジハード

お前たちに戦いを挑む者があれば、神の道のために戦いなさい。だがむやみに敵対してはならない。神は好戦的な者は愛さない。しかし戦いになれば、出会った敵は殺しなさい。

クルアーン 2:190-191

ムスリム軍に包囲された際の 異教徒の対応

1. イスラームに改宗する。
2. 自分の信仰を保持し、人頭税を支払う。
3. 戦う。

ムスリムとは

- 「アッラー（アッラーフ）以外に神はなく、ムハンマドは神の使徒であることを私は証言します。」
- 六信五行
 - 六信：（1）神、（2）天使、（3）啓典、（4）預言者、（5）来世、（6）予定
 - 五行：（1）信仰告白、（2）礼拝、（3）喜捨、（4）断食、（5）マッカ巡礼

シャリーア（イスラーム法）

- 宗教儀礼（食生活、礼拝、断食など）、結婚・離婚、葬儀、遺産相続、裁判、戦争など生活の全般にわたる指針を示す。
- 法学派によって、解釈上の違いがある。
- シャリーアの位置づけをめぐっては多様な意見がある。イスラーム主義者と世俗主義者（西洋的な意味での無神論者ではない）の間に、激しい対立が見られることもある。

スンナ派とシーア派

- スンナ派（スンニ派）
 - 預言者ムハンマドの打ち立てた慣行・規範（スンナ）を重視する人々がスンナ派。スンニ派はムハンマドやカリフ（後継指導者）を人間と見なし、共同体（ウンマ）の合意を重視する。
- シーア派
 - 預言者ムハンマドの血統を重視し、いとこのアリー（第4代カリフ、在位656-661）を指導者に仰いだのがシーア派。シーア派は指導者を絶対的な判断を下すイマームと呼び、神格化している。イラン、イラクが中心。

イスラーム主義の前史 — サラフ（父祖）時代への回帰 —

- 18世紀、アラビア半島で、イブン・アブド・アルワッハーブによる改革運動
- 聖者崇拜や神秘主義を厳しく批判する。イスラームの純化を求める。
- サウード家（→紋章）の保護を受ける。
- 1932年、サウジアラビア王国の成立。
ワッハーブ派イスラームを国教とする。



イスラーム主義の台頭

- 1929年、ムスリム同胞団（エジプト）
- 1979年、イラン・イスラーム革命
- 1987年、ハマス（パレスチナ）
- 1994年、タリバーン（アフガニスタン）
- 2002年、公正発展党による政権奪取（トルコ）
- 2012-14年、ムスリム同胞団の台頭と追放（エジプト）